※令和４年度以降入学生用

学校番号	1013

令和８年度　家庭科

教科	家庭科	科目	ファッション造形基礎	単位数	２単位	年次	２年前期
使用教科書	ファッション造形基礎　（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○自分を取り巻く衣生活について関心をもち、積極的に取り組みましょう

・衣服の歴史・材料・構成・などについて講義や実習等を通して学び、理解を深め知識を身に付けましょう。

・平面構成・立体構成の被服製作の実習を通して衣服の成り立ちを学び、基本的な技術を身に付け今後の生活に生かせるようにしましょう。

２　学習の到達目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得し、ファッション造形の基礎的な能力と態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	衣服の構成　和服の製作	○衣服の歴史 ○立体構成と平面構成 ＊和服を見つめ直す ○平面構成の服の製作 （浴衣か甚平の製作） ＊着装	a:和服の歴史を踏まえながら、伝統的な名称などを学んでいる。用具の適切な使用方法、布地の扱い方、縫製の基礎を製作過程に実践するために理解している。特徴や用語を学びながら、製作する作品に応じて理解している。着付けに必要な用具や手順を理解している。 b:しるし付け、基礎縫いなど学んだ基礎的な技法を表現して製作に取り組むことができる。また、その技法を自分の作品に表現することができる。着装のマナーなどを学び、TPO に合わせた和服の美しい着装ができる。 c:知っている和服や、着装する機会などを通して和服の伝統について関心をよせている。また、製作の準備として、基礎的技法を意欲的に学ぼうとしている。ゆかたなど、身近な和服の着付けに意欲的に取り組み、和服の着装機会に生かそうとしている。	ワークシート 小テスト 製作作品 実技テスト	実習記録表 製作作品	授業観察 授業記録表 振り返りシート

※令和４年度以降入学生用

	衣服の素材　洋服の製作	○立体構成の服の製作 （洋服などの製作） ＊着装 ○衣服材料 ＊三原組織の体験	a:繊維・糸・布とそれぞれの特徴、などを理解している。立体構成の衣服製作過程で必要なパターンを理解している。布の織り方を理解している。洋服の構成や、用具の適切な使用方法など縫製の基礎を製作過程に実践するために理解している。 b:布の織り方にも様々な種類があることを学んだ上で、それらを用いた日常に使用されている衣類を上げることができる。製作に必要な技法を習得し、それを自分で表現することができる。課題の実現に向けて計画的に実習できている。 ｃ：技法の学びや実践をとおして、作品製作に積極的に取り組んでいる。多様化するファッションの中で、衣服を選ぶことに関心をよせている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度